

2024年10月6日 主日礼拝 聖霊降臨節 第21主日 聖餐礼拝／世界聖餐日

説教題：「**自分の十字架を背負う**」

聖書箇所：ルカによる福音書14章25 - 35節 (137頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 53 交読詩編：詩編93編1 - 5節 (103頁)

讚美歌：83／53 (神のみ言葉は)／492 (み神をたたえる心こそは)／81 (主の食卓を囲み)／27

「今週の聖句」〔自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。〕 (ルカ伝14：27)

「牧師室の窓」 「世界での平和を祈る聖餐日キーウのガザの命を祈る」

「誰にでも背負う十字架あるならばこの人の世を我も歩まむ」

(1)皆様お早うございます。本日は10月最初の主日礼拝です。早くも1年の四分の三が経過しました。夏の暑さに驚いているうちに、残り3ヵ月となりました。…明るいニュースとして、小学2年生の男の子が「防災士」の資格を取ったことが伝えられていました。資格の取得は努力の賜物です。その小学生は、学校の友人たちに防災の意味を理解してもらうために工夫をしました。防災の大切さを画用紙に絵を描き、色紙や折り紙を貼り、友人たちに伝えました。努力と工夫、熱意と情熱ですね。…このニュースを見て、私はこの長かった夏に素晴らしいプレゼントをいただいたように感じました。あと2ヵ月もしますと、12月です。イエス様のお誕生のクリスマスを迎えることになります。今日の聖書箇所からその準備をして参りたいと思います。

(2)本日の聖書箇所は25節から始まります。〔(14:25)大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。〕今日の場面設定は道を歩いている途上です。舞台装置は何もありません。イエス様と大勢の人々が歩いています。縦に並んでいたのでしょう。「イエスは振り向いて言われた」と書かれています。イエス様は考え事をしておられ、後ろに続いて歩いている人々に「振り向いて言われた」のです。

26節を見てみましょう。〔(14:26)「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。〕イエス様はご自分の後ろに歩いている人々のこれからのことを、弟子となるのか、或いは、応援団になるのかを選択してもらう時期にあるとお考えになられたのです。勿論、イエス様から離れてしまうことも、その人の判断であります。イエス様に従って弟子となることの試験が始まったのです。…試験と言うのは、特定の日に特定の場所で行なわれるものではありません。学校生活では試験の日時が決まっており、その時間に自分の能力を発揮すれば、その結果が成績となります。併し、社会人になれば、特定の試験日は殆どなく、日常の仕事振り、動作や言葉使いが評価の対象となります。私は信徒としての職業人時代に事業計画の文書(稟議書と言いますが)を沢山書きました。文書を書き、口頭でも説明し、成程分かったと合点してもらわなければなりません。その都度その都度が真剣勝負です。

(3)では、26節には何と書かれているのでしょうか。今日の文章の骨格は「これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」です。二重否定の文章ですから、簡単に言えば、「これを憎めばわたしの弟子である」を強調しているのです。そうしますと、26節は「父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎めば、わたしの弟子である。」となります。

「憎む」とは、穏やかな表現ではありません。以前に慣れ親しんでいました口語訳聖書では次のように翻訳されています。〔口語訳(14:26)「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るのでなければ、わたしの弟子となることはできない。〕

口語訳聖書では「捨てて」と書かれています。文語訳聖書では「憎まずば」と書かれています。この箇所は明治時代から日本の社会では非難をされてきた言葉でした。キリスト教はとんでもない

教えてであると非難されてきたのです。併し、そうでしょうか。仏教、浄土真宗の親鸞聖人の言葉集である「歎異抄」では「善人よりも悪人の方が救われる」と書かれています。どういう意味でしょうか。それは、「自分の罪を自覚した人や、社会の底辺で生きる弱者が救われる」と理解することが出来ます。歎異抄は書かれている内容がよくないと判断されて、明治時代まで約6百年間公にされなかったのです。人間の社会では、日本の社会でも、物事を表面的に、形式的に理解することがしばしばあります。クリスチャンであっても物事を表面的に理解する人がいます。聖書を繰り返し繰り返し読む、とは理解を深める為であります。

旧約聖書申命記第6章には「心に留め…繰り返し教え」と書かれています。剣道でも野球でも素振り百回、千回と言います。たゆまぬ努力、目に見えない努力が重要です。

(4) 扱て、26節に書かれている「憎まない」は否定形ですから、元になっている肯定形の「憎む」のギリシア語原文の意味は「ある者を他の者より、選ばない・軽視する・無視する」です。つまり、26節の「憎まない」とは、ごく分かり易く言えば、どちらを選びますか、選択しますかという質問になります。選択をするとは覚悟することでもあります。

ここで、応用問題ですが、今から29年前の1月17日に阪神淡路大震災が起きました。死者6千3百人、負傷者4万3千人、多くの人の命を救わねばなりません。医療施設や人員、薬品には限りがあり、助かる命、助ける命、助けられない命、を選別しなければなりません。この選別をフランス語や英語でトリアージ(triage)と言います。怪我人の状況を見て、治療の緊急性・優先順位を即座に決断し、4色の札を付けていくのです。赤・黄・緑、そして、黒の札を付けます。その後、2005年のJR福知山線事故、2008年の秋葉原での無差別殺傷事件があり、また、地域ごとの緊急医療体制が構築されてゆきました。

(5) 続いて、27節を見てみましょう。〔(14:27) 自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。〕この27節も26節同様に、そして、33節も二重否定の文章になっています。二重否定の文章を3回も繰り返し返しているのです。よくよく注意して聞きなさい・理解しなさいと強調しています。それを裏返して読みますと、簡単にできることではないが、やってみなさい、やってみなはれ、とイエス様は私たちに応援しておられるのだと読むことが出来ます。聖書の重要ポイントの1つに「裏返して読む」があり、ここでもそのことが確認できます。

…「自分の十字架を背負う」とは、イエス様の十字架での受難と死を共にすることです。では、何故、この場面で「自分の十字架を背負う」という言葉が出てきたのでしょうか。読み手である私たちには唐突な言葉です。併し、イエス様の後についてきた人々にはよく理解できたのです。当時、ユダヤの地域はローマ帝国の支配下にあり。ローマ帝国の役人や軍人が罪人を処刑上に連れて行く時には、罪人は自分が処刑されて死ぬ十字架を背負って歩くことが強制されていました。これはローマ帝国への服従を強いると共に人々への警告を示していました。従って、イエスの弟子になれば、イエスと運命を共にすることになります。「自分の十字架」とは、それぞれがイエス様のために、主の栄光を表わすために、一人ひとりが為すべき務め・役割であります。讃美歌21の520番に「真実に清く生きたい」があります。元になる歌は讃美歌1954年版の452番です。その歌詞の第1節に「正しく清くあらまし、為すべき務めあれば、雄々しく強くあらまし、負うべき重荷あれば」、第3節には「完全(またき)に向かいて進まん、途にて気を緩めず、上なき目当てを望み、笑みつつ絶えず進まん」ここには「負うべき重荷あれば」と書かれています。「負うべき重荷」は人それぞれに異なります。また「上なき目当てを望み」とは、希望を(捨てずに)胸に秘めて生きる。現代風に言えば、ガラスの天井(ジェンダーギャップの天井)があったとしても、それを乗り越える努力であります。

(6)続いて、28節～30節には「塔を建て」る話書かれています。「塔」とはぶどう園に泥棒が入るのを監視するための踏み台・ステップ台であると考えられます。続く31節～32節には戦争を行なうか止めるかの判断が書かれています。この2つの譬え話では対処方法が似ています。28節の「塔を建て」る話では、「まず腰をすえ」そして「計算」つまり、判断するのです。次の31節の戦争を行なうか否かについても、「まず腰をすえて」そして「考えて」つまり、判断するのです。従って、よくよく考えて、33節「自分の持ち物を一切捨て」れば、「わたしの弟子」になることが出来ますよ。よくよく考えてみなさいと、イエス様はおっしゃっておられるのです。今月の10月27日には神学校日礼拝として、神学生に奨励を(御言葉の取次ぎを)していただきます。神学生にとって何よりも大切なことは「キリストの弟子になる」という決心と継続力です。神学校日礼拝として、始めて行く教会で、教会員との交流は「キリストの弟子になりつつあるかどうか」のリトマス試験紙判定実験の時であります。同様に、神学生を迎える私たちも「キリストの弟子である」ことのリトマス試験紙判定実験の時であります。今日の聖書箇所34節35節には「塩」のことが書かれています。「塩に塩気がなくなれば」とは、リトマス試験紙がまだなかった頃の実験の判定結果を示していると考えることが出来ます。この世の中にあってもクリスチャンとして、一つまみの僅かな分量であっても、「塩」として生きて参りたいと思います。今日の聖書箇所には「自分の十字架を背負ってついて来る者」と書かれています。「背負」い方や方法は人それぞれに異なりますが、夫々の人生を主と共に歩んで参りましょう。

・・・お祈りいたします。

私たちは1週間の生活を過ごし、新たな1週間の日々を主と共に過ごそうとしています。私たちに導いて下さいますように。地震や豪雨の災害を受けた人たちをお守り下さい。戦争の渦中にある人々の命をお守り下さい。平和が実現しますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

〔新共同訳ルカによる福音書(14:25)大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。/(14:26)「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら(憎む：μισεω,選ぶ・好む⇒愛する、選ばない・軽視する⇒憎む、マタイ伝6:24：一方を選択する、他方を選択しない、優先順位を付ける：トリアージ triage、1995平成7年阪神・淡路大震災、)、わたしの弟子ではありえない。/(14:27)自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。/(14:28)あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算(判断する)しない者がいるだろうか。/(14:29)そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、/(14:30)『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。/(14:31)また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えて(判断する)みないだろうか。/(14:32)もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。/(14:33)だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」/(14:34)「確かに塩は良いものだ。だが、塩も塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。/(14:35)畑にも肥料にも、役立たず、外に投げ捨てられるだけだ。聞く耳のある者は聞きなさい。」〕

〔**聖書協会共同訳**ルカによる福音書(14:25)大勢の群衆が付いて来たので、イエスは振り向いて言われた。/(14:26)「誰でも、私のもとに来ていながら、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命さえも憎まない者があれば、その人は私の弟子ではありえない。/(14:27)自分の十字架を負って、私に付いて来る者でなければ、私の弟子ではありえない。/(14:28)あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰を据えて計算しない者がいるだろうか。/(14:29)そうしないと、土台を据えただけで完成できず、見ていた人々は皆嘲って、/(14:30)『あの人は建て始めたが、完成できなかった』と言うだろう。/(14:31)また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えようとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうかを、まず腰を据えて考えてみないだろうか。/(14:32)もしできないと分かれば、敵の王がまだ遠くにいる間に、使節を送って和を求めるだろう。/(14:33)だから、同じように、自分の財産をことごとく捨て去る者でなければ、あなたがたのうち誰一人として私の弟子ではありえない。」/(14:34)「塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。/(14:35)土にも肥やしにも役立たず、外に投げ捨てられるだけだ。聞く耳のある者は聞きなさい。」〕

〔**口語訳**ルカによる福音書(14:25)大ぜいの群衆がついてきたので、イエスは彼らの方に向けて言われた、/(14:26)「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。/(14:27)自分の十字架を負ってわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。/(14:28)あなたがたのうちで、だれかが邸宅を建てようと思うなら、それを仕上げるのに足りるだけの金を持っているかどうかを見るため、まず、すわってその費用を計算しないだろうか。/(14:29)そうしないと、土台をすえただけで完成することができず、見ているみんなの人が、/(14:30)『あの人は建てかけたが、仕上げができなかった』と言ってあざ笑うようになろう。/(14:31)また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えるために出て行く場合には、まず座して、こちらの一万人もって、二万人を率いて向かって来る敵に対抗できるかどうか、考えて見ないだろうか。/(14:32)もし自分の力にあまれば、敵がまだ遠くにいるうちに、使者を送って、和を求めるであろう。/(14:33)それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない。/(14:34)塩は良いものだ。しかし、塩もききめがなくなったら、何によって塩味を取りもどされようか。/(14:35)土にも肥料にも役立たず、外に投げ捨てられてしまう。聞く耳のあるものは聞くがよい。」〕